

今回はそれぞれに魅力溢れる合唱曲を持つ3つのカンタータを中心にお届けします。「ロ短調ミサ」のCrucifixus（十字架につけられ）に転用された、斬新で圧倒的な表現力を持つ12番、穏やかで格調の高いモテット風合唱の37番、「前奏曲とフーガ」のような形態の75番と、変化に富んだ合唱をお楽しみいただけます。また、12番と75番の最終コラールは共に、バッハが最も愛したコラールのひとつである「神の御業こそ善けれ」が置かれており、そのコラールを粹組としてプログラムを構成いたしました。

以上に加え、情緒豊かで技巧的な器楽・声楽ソロの曲も多く、新進気鋭の若手演奏家の真摯かつひたむきな演奏は、バッハ作品が「青春の音楽」であることを如実に示してくれることでしょう。

また、12月4日は教会暦の新年である待降節に入っていますので、バッハのカンタータの中から、ドイツ古来の待降節・クリスマスのためのコラールをご紹介します。

## ♪ 出演者プロフィール ♪

### 藤井 冴 Fujii, Sae (ソプラノ)



愛媛県松山市出身。愛媛県立松山東高等学校卒業。東京藝術大学音楽学部卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程声楽（オペラ）専攻を、大学院アカンサス音楽賞を得て首席修了。2014年度「岩谷時子 Foundation for Youth」を受賞。よんでん文化振興財団奨学生。「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ、「秘密の結婚」カロリーナ、「リゴレット」ジルダ、「ウェルテル」ソフィー等を演じ、また「メサイア」や「第九」など多くのソリストも務めている。現在、同大学院音楽研究科博士課程声楽（オペラ）専攻に在籍。

### 山下 裕賀 Yamashita, Hiroka (アルト)



京都府出身。京都教育大学附属高等学校卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。学部卒業時に同声会賞を受賞すると同時に、同声会主催新人演奏会に出演。第23回友愛ドイツ歌曲コンクール学生部奨励賞受賞。第61回藝大オペラ定期公演モーツァルト《フィガロの結婚》にてケルビーノ役を演じる。宗教曲では、ヘンデル《メサイア》、モーツァルト《レクイエム》、ベートーヴェン《第九》等のアルトソリストを務める。声楽を、藤花優子、伊原直子、菅英三子の各氏に師事。現在、同大学院音楽研究科修士課程オペラ専攻3年次に在籍中。

### 沼田 臣矢 Numata, Shinya (テノール)



岩手県出身。岩手大学教育学部芸術文化課程音楽コースを経て東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。同大学大学院古楽科バロック声楽専攻に在学中。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、川上洋司、野々下由香里の各氏に、指揮を田中良和に師事。これまでにJ.S.バッハ《マタイ受難曲》《クリスマス・オラトリオ》《ミサ曲短調》《ミサ曲長調》や教会カンタータ、G.F.ヘンデル《メサイア》などのソリストを務める。ノヌラマクタラ室内楽団代表。Vocal Consort Tokyo、モーツァルト・アカデミー・東京、各メンバー。

### 松田 亜蘭 Matsuda, Aran (バス)



神奈川県出身。カナダのマニトバ大学音楽学部声楽科卒業。モントリオールのマギル大学大学院音楽部声楽科卒業。声楽を山田雅利、Mel Braun、Robert MacLaren、Sanford Sylvan、佐々木正利、Stefano Algieriの各氏に師事。2009年、ウィニペグ音楽祭にて声楽グレードA部門優勝、ローズ杯獲得。同年3月、ウィニペグ交響楽団とソロ出演。2010年3月、ウィニペグにて「ヨハネ受難曲」のイエス役を務める。11月には同地のバロック・アンサンブル「カンゾナ」のバッハ「マニフィカト」バス・ソロを務める。2012年7月にはウィーン郊外のバーデンにおけるSchubert Institut（ドイツ歌曲夏期講習）において、ヘルムート・ドイチュ氏、エリー・アメリック氏らの公開レッスンを受講した。同年9月にはバッハ・コレギウム・ジャパンのヨーロッパツアーに参加した。オラトリオは他にもモーツァルト、フォーレ、デュリュフレ「レクイエム」、バッハ・カンタータBWV4、21、36、37、39、93、194、235のバス／バリトン・ソロ。オペラにおいては「カプレーティ家とモンテッキ家」カペッリオ役、「ヘンゼルとグレーテル」父親役、「フィガロの結婚」題名役などを務めた。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン会員。

### 橋本 眞行 Hashimoto, Masayuki (指揮)



中学時代吹奏楽コンクール四国大会優勝の経験を持つ（クラリネット／コンサートマスター）。高校から合唱にも参加し、愛媛大学合唱団指揮者を経て東京バッハ合唱団入団後、大村恵美子氏指導のもと、また、小林道夫、ヘルムート・リリング、若杉弘各氏の指揮のもとで研鑽を積む。更に1979年より東京スコラ・カントールムのメンバーとして黒岩英臣氏の指揮のもとグレゴリオ聖歌から近代に至る宗教曲を勉強。1982年、1983年にはヘルムート・ヴィンシャーマン、ヘルムート・リリング両氏よりカンタータについて指導を受ける。その後もハインツ・ドレンゲマン、ペーター・ノイマン、ハンス・M・ボイアーレ氏らのバッハやモーツァルト作品による日本公演への参加や9回に及ぶヨーロッパ演奏旅行（松山バッハ合唱団／東京バッハ合唱団／京都・大阪ゲヴァントハウス合唱団メンバーとして参加）を通じて研鑽を積む。テノール歌手であるが、1978年松山バッハ合唱団結成以来指揮者を務める。2003年から2009年7月まで東京バッハ合唱団副指揮者を務める。伸びやかで自然な響き作りと躍動感のある音楽作りに定評があり、2009年9月よりバッハカンターテンコア（東京）の指揮者にも就任。日本ドイツリート協会会員。